

## 最優秀賞（国土交通大臣賞）

△作文（小学生）の部▽

### 『ぼくたちの命を守る砂防ダム』

群馬県高崎市立中室田小学校 四年 萩原 琢斗

ぼくたちは砂防ダムの見学をしてきました。見学をしてきて強く思ったことは、砂防ダムがぼくたちの生活を守ってくれているんだという思いです。この気持ちは、土石流の模型器具を使った実験をした時から感じ始めました。でも、最初のうちは、模型がよくできていて本物のようだなとか、土砂の代わりにビー玉を流せば下流に置かれた家・ビル・橋も流されてしまうだろうなというような軽い気持ちでした。実際にぼくがビー玉を流す実験役をした時は、ビー玉が家や橋をはじきとばす様子をおもしろがって見ていました。ところが、次の実験で気持ちが変わってきました。その実験は、けい流沿いに砂防ダムを造っておき、ビー玉を流すと下流の様子がどうなるかを見ていくものです。友達がぼくと同じようにビー玉を流しました。ビー玉は勢いよく流れ落ちましたが、小さなダムがすべてのビー玉を食い止めてしまったのです。と中に砂防ダムを造っておくと、下流の町を救うことができるのでした。

実験が終わると、本物を見に行きました。榛名川砂防せきです。このダムは榛名神社の横にあり、ぼくの家からそんなに遠くではありません。でも、見るのは初めてです。このダムは昔に造られたもので、石で組まれていました。間近で見るととても大きく、がんじょうそうなのでおどろいてしまいました。災害という言葉は時々ニュースで聞くことがありますが、このような施設がぼくたちの生活を災害から守っているんだと初めて知りました。

バスに乗っているとき、「なるほど」と思う話がありました。それは、三・一一の東日本大震災が起こったときのことです。地震が発生するとすぐに国交省の係の人たちが、砂防ダムに平常がないかどうかを点検したという話です。もし、い常に気がつかなければ、大雨がふったときにダムの役目を果たせなくなるからです。ぼくはすぐに点検してくれて「ありがたい」と思いました。

三番目に見た堀の沢という場所では、ダムのこう造にすごい工夫がありました。中央付近が数本の鉄の柱で区切られて、今まで知っているダムとは形がちがうものでした。この造りにすると、流されてきた岩や土砂をせき止めることができますが、水はすきまから流せるそうです。このような工夫があれば、ダムがあふれることはないでしょう。事前学習をしていたとき、インターネットでいろいろな種類の砂防ダムを見てきましたが、目の前にあるダムの大きさや工夫のすごさを見て、自分たちの住む地域が災害から守られているんだなと感じました。

最後に河川工事の現場を見させてもらいました。そこは、ぼくの家近くだったので河川工事をしていることは知っていました。しかし、説明を聞くと「大きな秘密」がかくされていたことがわかりました。秘密の一つ目は、川に段差がつけられていることです。この段差をつけることで水流が弱まり、はらんから地域を守っていくのです。秘密の二つ目は、魚道の整びです。生き物が住めるかんきょうにも気を配っていたのでびっくりしました。そして、秘密の三つ目は工事の仕方です。ぼくには工事の仕方はよくわかりませんが、川の水質を汚さないように気を配っているということにおどろきました。工事といえば、「汚れ」という言葉が想像できますが、ここでは当てはまりませんでした。

今回の見学では、ぼくたちのくらしを守るために、たくさんの方の苦労や工夫があることを知ることができました。これまでは、ふだん見なれてきた滑川ですが、今は、「あそこに災害を防ぐ工夫があるんだ」「上流では砂防ダムが土砂を食い止め、守ってくれているんだ」と思うようになりました。また、大雨がふると、堀の沢の砂防ダムに岩がせき止められているのかな？と思いました。

学校では、「安全な暮らしを守る」という単元で、警察や消防、そして、日常生活に欠かせない「水」について学習してきましたが、災害から生活を守る砂防ダムについても学習を深めることができました。この見学で、一番良かったところは、堀の沢の砂防ダムのところでした。それは、クラス全員がダムに向かって、「ぼくたち、私たちのくらしを守ってくれて、ありがとうございます。」と言えたことでした。